

次号予告

- 特集 重度障害者のリハビリテーション
 重度障害者に対するリハビリテーション……東大病院 上田 敏
 養護学校義務教育における重度化問題
 ……………国立特殊教育研究所 高杉 弘之
 重度障害者の保護雇用……………東京コロニー 調 一興
 重度障害者の就労と雇用促進法……身体障害者雇用研究所 野田 武男
 重度障害者のトータルライフプランニング
 ……………兵庫リハビリセンター 黒田 大治郎
 <資料> Comprehensive Service for
 Independent Living……………都心障センター 長田 香枝子
 とびら 他人がみえない……………北海道衛生部衛生大学設立準備室 鈴木 明子
 講座 関節のモビライゼーション 1. 総論……………国立大阪南病院 博田 節夫
 心理学シリーズ I 発達心理(1)……………筑波大学 高野 清純
 精神科作業療法……………阪本病院 大丸 幸
 プログレス リハビリテーション医学専門医・
 認定医制度の発足……………東大病院 上田 敏
 リハビリテーション・インフォメーション<埼玉県>……………加納整外病院 横山 隆幸・他
 養成校紹介 国立普通寺病院付属リハビリ学院……………清水 光芳
 愛媛医療学院……………内田 麻里子

編集後記

あけましておめでとうございます。'80年はいろいろのことがありました。大平首相の死、長島、王、野村、三重の海の引退、越路吹雪の突然の死、レーガンの圧勝、43歳の女性マラソンランナー；英国人スミス夫人の驚異的な健闘……。とくに秋に入ってからビッグイベントの連続的展開には全くついていけない感じがいたしました。中でもアメリカが行った土星への接近の中継放送には唯々おどろき、感心するばかりでありました。

ひるがえって、我が PT, OT 界はどうであったでしょうか。PT, OT の技術に大きな進歩がみられたのでしょうか。「富士見病院事件」のような医療の倫理の荒廃には PT, OT は決して手を貸してはなりません。'80年代2年目の幕明けに際してひとりひとり心を引きしめ学んでいかなければならないと思います。

さて、1月号を新鮮な気持ちでお届けいたします。「リハビリテーション機器」というと「福祉機器」「医療機器」「教育機器」

とどこがちがうのかという言葉の定義から問題となりました。「リハビリテーションに関する機器」の全てを対称とすべきですが、それだけの紙面がありません。そこで、本誌では評価機器、治療機器は省かせていただきました。PT, OT の立場からみて「本当に実用性があると確信する機器」のみを取り上げて書いていただきました。ひと昔前は欧米からの輸入、ものまねに終始していたこの分野も、関係者の努力で随分進歩してきました。今後ユーザーである障害者側の要望をもっともっと生かし、よい機器が生れることを念じます。この特集の編集の過程で、読者の方々からさまざまな「自慢の手づくりの機器」の紹介をいただきました。うち編集部として良いものは載せさせていただきます。障害者の方々にも御意見をいただきました。御協力ありがとうございました。今年の国際障害者年にこの特集が大いに利用されていくならば、編集委員望外の幸せでございます。

(寺山久美子)

<編集顧問>

天児民和
 九州労災病院名誉院長
 五味重春
 埼玉県生活福祉部
 砂原茂一
 国立療養所東京病院名誉院長
 津山直一
 東京大学教授・整形外科
 水野祥太郎
 川崎リハビリ学院長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田 敏
 東大リハビリ部
 荻島秀男
 リハビリテーションペ
 イン(縮み)クリニック
 かわらび診療所
 大喜多 潤
 兵庫県リハビリセンター
 寺山久美子
 都心身障害者センター
 富岡 昭子
 山梨日下部病院
 奈良 勲
 金沢大学医療技術短大
 福屋靖子
 筑波大学
 松村 秩
 都養育院リハビリ部

<編集同人>

安達 克巳
 池田 俊雄
 伊東 元
 宇都宮 初夫
 大丸 幸
 金子 翼
 鎌倉 矩子
 紀伊 克昌
 木村 信子
 駒沢 治夫
 佐藤 馨
 嶋田 智明
 鈴木 明子
 関 昌家
 高橋 正明
 中屋 久長
 橋元 隆
 藤沢 しげ子
 矢谷 令昭
 山下 隆昭
 (担当 細田・西塚)